

授業実践例

益田郡算数部会

第2学年算数科学習指導案

萩原小学校 授業者 西尾 鹿正

1. 単元名 『かけ算(2)』

2. 指導の立場

(1) 単元について

A(3) 乗法

(3) 乗法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。

ア 乗法が用いられる場合について知り、それを式で表したり、その式をよんだりすること。

イ 乗法に関して成り立つ簡単な性質を調べ、それを乗法九九を構成したり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

ウ 乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。

本単元の内容について、学習指導要領には、次のように記述してある。

2学年では、乗法が用いられる実際の場面を通して、乗法の意味について理解できるようにすること。また、乗法九九を構成したり、その過程で乗法九九について成り立つ性質に着目したりするなどして、乗法九九を身に付け、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできるようにすることをねらいとしている。

乗法は、1つ分の大きさが決まっているときに、その幾つ分かに当たる大きさを求める場合に用いられる。つまり、同じ数を何度も加える加法、すなわち累加の簡潔な表現として乗法による表現が用いられることになる。しかも、乗法九九の唱え方を記憶することによってその結果を容易に求めることができるという特徴がある。

乗法九九については、できあがっているものを記憶させるだけでなく、児童自らが構成することを通して学習したり、答えの数値の並び方のきまりを発見しながら学習したりするなど工夫することが大切である。

また、乗法九九は、以後の学年で取り扱う乗法の計算における基礎的な技能として欠くことのできない重要なものである。したがって、それを構成したり理解したりするに当たっては、体験的な活動や身近な生活体験などと結び付けるなどして指導方法を工夫していきたい。

本単元では、前単元「かけ算(1)」に引き続き、6の段から9の段および1の段の乗法九九を学習させていく。児童は前単元の学習を通して、九九の積を乗数が1ふえると積は被乗数分だけふえるという性質に着目して求めるようになってきている。ここではその経験をいかし、児童自ら6~9の段を構成し、乗法九九を身に付け、活用できるようにしていく。

(2) 児童の実態

男子15名、女子10名で、明るく活発なクラスである。4月当初より算数の学習を通して、自分の考えをもつことを大切に行ってきた。その結果、ノートに自分の考えの足跡を残そうとする子が増えてきた。しかし、自信がないのか発表することに抵抗を感じている子も多い。

かけ算の単元をはじめる時に、知っていることを聞いてみた。すると、「三四、12」「5の段まで言える」などすでに知っている子が多く、これから始まる学習を楽しみにしている様子であった。しかし、かけ算=九九と思っているようである。だから、かけ算の意味(1つあたりの大きさ×いくつ分)について丁寧に指導し、意味を押さえた上で九九の唱え方を「九九の歌」、九九カードなどでくり返し練習し、覚えてきた。

本時は9の段の九九の構成の時間である。2～8の段の九九の構成で用いてきた乗法の性質に着目したり、交換法則や分配法則を用いたりして構成することを通して、多様な考え方に触れさせたい。

学ぶ楽しさと充実感を味わう算数教育の創造

3. 研究主題にかかわって本単元における試み

(1) 自己充実感を味わわせる指導のあり方

児童が自己充実感を味わう場面とは、問題が解けたとき「できた」自分の考え方とは違う考え方に会ったとき「なるほど」疑問が解決されたとき「あっ、そうか」であると考えた。

については、既習の考え方をもとに九九を構成し、くり返し練習した。

については、6の段以降の九九の構成で多様な考え方を出させ、それぞれの考え方を位置付け、価値付けるようにした。

については、個人の疑問を集団の疑問として取り上げ、共通課題として扱い解決してきた。

(2) 社会や身の回りの生活に生かすための工夫

前単元「かけ算(1)」では、九九の構成の時間に素材に児童の生活場面を想起させるものを選び、課題の必然性をもたせてきた。本単元では、練習問題や九九の習熟を図る時間を、具体的な生活場面を想起させるように仕組んでいきたい。

また、「かけ算は便利だな」という思いをもち、これからの生活に生かしていけるように、具体的な生活場面の問題を作ったり、解いたりする活動を取り入れたい。

(3) 自己選択・自己責任の場を取り入れた自立学習の進め方

【自己選択】九九の暗唱のレベルを 上がり九九 下がり九九 ランダムと3段階設けて、レベルアップを目指し、くり返し練習した。

【自己責任】まとめの言葉をできるだけ自分の言葉で書けるように投げかけた。

4. 単元の目標

(1) 乗法に興味・関心をもち、進んで乗法九九を構成したり用いたりしようとする。

(2) 乗法では、かける数が1ふえると、答えはかけられる数だけ大きくなることなどを用いて、6の段、7の段、8の段、9の段、1の段の乗法九九を構成することができる。

(3) 6の段、7の段、8の段、9の段、1の段の唱え方を知り、それらを用いて問題を解決することができる。